

＜ 運営推進会議における評価__様式例 ＞ ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 愛広会	事業所名	ナーシングケアとよさか
所在地	(〒 950 - 3325) 新潟市北区白新町2丁目13番10号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護師が常時日中 2名配置されています。ご自宅に訪問しての健康観察や医師の指示書に基づく医療処置ができます。
同一建物内にはサービス付き高齢者向け住宅の愛広苑式番館があり、愛広苑式番館に住みながらナーシングケアとよさかをご利用いただく事も可能です。
同グループの各種施設等と連携を取りながら、可能な限りご自宅での生活が継続できるよう、柔軟に対応させていただきます。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	令和 8 年 1 月 28 日	従業者等自己評価 実施人数	(15)人	※管理者を含む
----------------	-----------------	------------------	---------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 3 月 25 日	出席人数(合計)	(10)人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員(3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者(2 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者(1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族(1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 知見を有する者(1 人) <input type="checkbox"/> その他(人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価		
			自己評価	運営推進会議における意見等	
I. 事業運営の評価 (評価項目1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・新理念は作成中であり、新年度より新たな理念でスタートいたします。 ・ターミナル研修等に参加していますが全員ではなく、内部研修にて対応しています。看護協会の研修にも積極的に参加させていただきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新理念を掲げ、第1回運営推進会議にて理念と基本方針を紹介させて頂いた。 ・看護協会から研修案内が届くようになり勤務調整を行い参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新理念、基本方針を更に浸透させていく。 ・看護協会の研修には積極的に参加させて頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、基本方針と共に地域への発信としての活用、サービス提供状況や質の評価と合わせて浸透させていけると良いと思われる。 ・看護協会の研修に参加をし、その内容を事業所内で共有できるとより良いケアが提供できると思います。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や電話等で確認はしていたが、状態や状況に変化がない方はアセスメントの更新が後回しになってしまっていた。その都度しっかりとアセスメントを取り、本人、家族の思い等を確認して共有できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更新の度にアセスメントを更新している。 ・本人や家族の思いは訪問を基本に確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを導入した事により、職員間で戸惑いはあったが、改善を重ねる事により入力が定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアセスメントも変化やリスクの予測を含めて必要性を職員間で意識できることが重要になると思われる。 ・システムの変化で記録類の不足や職員の負担感につながらないように配慮も必要。 ・ICTの活用は業務改善にとっても有効だと思います。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に退院前カンファレンスや利用者宅への訪問、CMや病院との情報交換、共有は行っているが、事業所内への周知が不足していたと感じる。記録だけでなく、日々のミーティング時等でも周知していく事とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院前カンファレンスや訪問等、CMだけでなく看護師も同行する等して共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録はもちろんであるが、ミーティングでの共有や質問も多くなり、看護、介護の共有、連携が図れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種での専門性を活かした連携のためには、それぞれの知識や経験にも研鑽が大切になると思われる。 ・連携が図れてとてもいいと思います。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な受け入れができるよう、看護を中心とした研修会の参加を行います。 ・共有を念頭に置いた支援を行い、皆様が安心して利用できる環境作りを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で地域の情報も得る事ができ、地域行事の駅前植栽や防災研修会等に参加させて頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が順番に地域行事に参加できるよう調整を行っている。地域の方から声を掛けて頂く事も多くなっている。 ・訪問看護の利点をもっと発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関係づくりには継続した参加体制を意識できていると感じた。 ・看多機の機能の社会への周知度から理解を進めていくことも必要。 ・地域の防災訓練に参加でき良いと思いました。
III. 結果評価 (評価項目42～44)	<ul style="list-style-type: none"> ・癌末期の方を受け入れたり、終末とも受け取れる方の支援も行っている。今後も医療との連携を強化し、対応していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後や医療が必要な方に、通いと訪問看護を組み合わせ、ご家族を基本に医療機関やサービス機関等との共有を行い対応してる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度が高い方のご希望に添えるよう、研修参加や自己研鑽に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、職員間の連携を深めて情報共有や理解の統一を図ることで安心安全なケアになると思われる。 ・実績を作り、重度者でも安心して在宅生活が継続できるように取り組んでください。 ・研修で学んだ事も活かせればと思います。 	

※ 「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 「今回の改善計画(案)」及び「運営推進会議における評価」

項目		改善計画(案)	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目1～10)		・職員間やご家族、医療機関、サービス事業所等との情報共有の大切さを周知し、実践する。	・関係者で問題や目標などを含めて具体的な部分で共有し、統一した対応がとれる準備が出来ているとよいと思われる。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)	・体調の変化や重度化した場合の意向確認を随時行い、職員全員に周知をし行動する。	・随時のタイミングも明確にできること、定期的な対応をすることで利用者や家族のの思いに寄り添う形になると思う。 ・意向は随時変わるものなので、入所時、急変時と必要に応じて確認していければよいのではないかと思います。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28～31)	・緊急時に速やかに対応できるようシミュレーション訓練を実施し、関係機関とも良好な関係性を築いていく。	・出来る範囲での予測で利用者毎の対応フローとしていけるなら安心感や今後の評価にもつながると思われる。 ・マニュアルとシミュレーション訓練が有効だと思います。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32～41)	・地域への行事参加はあるが地域からのボランティア等の参加がないうえ、積極的に発信し、地域との関りを深めていく。	・施設で実践している行事なども施設情報と共に発信し周知を拡げていく事もできると思われる。 ・ボランティアさんが来ると皆が喜ぶので、是非、関りを持てると良いと思います。
III. 結果評価 (評価項目42～44)		・当事業所を利用する事で、ご本人やご家族が安心して過ごす事ができるように支援させていただく。	・利用者や家族の思いを生活全般の中で確認し、情報共有できることが大切になると思う。

※ 自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおそ できている	あまり できていない	全く できていない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアシステムへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	5	8	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・おおそできていると思います。利用者の受け取り方にもよるので難しいとも思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	1	9	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・理念がケア計画の強みになれば、達成時に理念を意識できる機会となることも考えられる。 ・あまりできないという評価が上がるように期待しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまり できていない	全く できていない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	3	11	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定やフィードバックは良い取り組みだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 介護ラダー等で自身の目標を決めたり、フィードバック面談にて今後の改善点等考える機会がある為、キャリアアップを個別に図り目標を明確にすることが出来ている。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	3	12	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 職員の偏り事情があれば仕方ないが、達成時に理念を意識できる機会となることも考えられる。 アウトプット出来ていて良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 法人内外の研修が多々あり、参加する職員には偏りがあるものの、内部研修としてアウトプットできている。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	4	6	5	0	<ul style="list-style-type: none"> 把握内容不足なのかハードの問題なのか、機会を有効に生かす検討も必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報を共有する機会」の充足度を評価します 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 定期的なスタッフ会議の開催、毎日のミーティング、タブレットで写真を撮影することで状態把握が全職員に申し送りノート等、複数の方法で情報共有しているが、把握不足もある為、意識改革・改善が必要。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまり できていない	全く できていない		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	2	10	3	0	・議事録の内容だけでなく、積極的な情報共有ができています。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 議事録が開示されており、更に運営推進会議で出た意見をスタッフ会議でも伝達している。実際、連絡帳の大切さの話があり、御家族・ご本人が分かりやすく不快にならない記載方法を心掛けている。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	7	8	0	0	・休める事、連携して業務を行えている事を示す数値になっていると感じます。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 家庭事情を考慮して勤務体制が整えられおり、ほぼ残業することなく退勤している。急用等の休みや時間休などの取得の場合も出勤職員間で声かけしフォローし合っている。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	1	11	3	0	・迅速に全職員に伝わる様努力してください。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 申し送りノートやタブレットを活用し情報共有しており、毎日のミーティングで話し合いはできている。時々特定のスタッフだけで情報交換を済ませることがある為、迅速に全職員に伝わるよう声を上げる事が必要。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまり できていない	全く できていない		
(5)安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	3	11	1	0	・発生時にしっかり検討していると今後の安全確保に繋がると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します ✓ 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		【具体的な状況・取組内容】 季節ごとの注意点や、今後起こり得る事を想定し、スタッフ会議やミーティングで注意喚起を行っている。細かな事でもヒヤリハット報告書を活用し事故に対する予防、対策を立てご利用者と職員の安全に努めている。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	3	12	0	0	・毎月訓練を行っているのはすごいです！見習いたいです！	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		【具体的な状況・取組内容】 毎月、避難訓練や緊急連絡網の訓練を行い、マニュアルの更新を適宜行っている。BCP作成しているが、職員に確実に周知してもらうよう、しっかりと研修していく必要がある。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	0	6	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり出来ていないという評価が上がるように取り組んでください。 ・アセスメントはとても大切なので自宅での様子もアセスメントできるといいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	0	7	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり出来ていないという評価が上がるように取り組んでください。 ・多職種で連携とる事は大変だと思うけれど、大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	1	12	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や本人がどのような生活を継続したいのか、定期的に確認できるとよいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持または向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	0	13	2	0	・アセスメントを計画的に行い、計画へ反映されるとよいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		【具体的な状況・取組内容】 自宅復帰された実績をみると、利用者の有する能力を活かした計画になっていると思う。自立した生活を送る為に出来る事を模索し、生活機能の向上に繋がれたら良いと思う。					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	0	10	4	1	・多職種で連携できているのはとても良いと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
		【具体的な状況・取組内容】 状況変化に気づけるよう、体調確認をケアプランに入れたり、医療的管理が必要な方には訪問看護指示書を作成し、看護・介護・ケアマネで連携している。					
(2)利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	0	11	4	0	・計画への反映が迅速にできると良いと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 毎月のモニタリングを行い早期の状況把握は出来ているが、計画へ反映に時間を要しているのが現状。今後の課題でもある。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおそ できている	あまり できていない	全く できていない		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	1	11	3	0	・継続して取り組んでください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		【具体的な状況・取組内容】 優先度や必要度により、利用について偏りはあるものの、自宅訪問したり、送迎で家族に会った時に確認している。					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	1	13	1	0	・受診の時のお手紙がとても役に立っています。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 受診時に医療連携情報シートを活用したり、訪問看護報告書で主治医との情報共有はできている。必要時には医療機関の相談室や医療連携室に直接電話をし、柔軟な対応を行っている。					
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	4	6	4	1	・効果的、効率的ではない部分を具体的に揚げ、分析すると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的、効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		【具体的な状況・取組内容】 利用者に何が必要なのかという点から、介護と看護に分かれ、サービス提供されている。役割分担はできているものの効果的・効率的でない部分も否めない。今後の課題でもある。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおそできている	あまりできていない	全くできていない		
20	○利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	2	7	4	2	<p>・職種間の温度差は専門性の違いも影響していることも考えられるので、話し合いや情報共有の機会が今より必要と思われる。</p> <p>・あまり出来ていないという評価が上がるように取り組んでください。</p>	✓「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<p>【具体的な状況・取組内容】 情報共有できているか否かについては、介護・看護で温度差が感じられるため、記録や確認を怠らない様日々伝えていく必要がある。対応策についてはミーティングを利用し、話し合いをしている。</p>					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	1	7	6	1	<p>・あまり出来ていないという評価が上がるように取り組んでください。</p> <p>・様々な研修が実施されており良いと思います。施設内の課題に合わせた内容の研修を行うと、もっと良い評価になるのではないのでしょうか。</p>	<p>✓「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
		<p>【具体的な状況・取組内容】 手洗いチェッカーを利用したり、ガウンの着脱方法など看護師から様々な研修あった。研修だけではなく、利用者の疾病について気を付ける事や予後予測を伝達してくれると介護は安心すると思う。</p>					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	0	13	2	0	<p>・あまり出来ていないという評価が上がるように取り組んでください。</p> <p>・しっかり説明できている数値の表れだと思えます。</p>	✓「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>【具体的な状況・取組内容】 出来る事、出来ない事を利用者と話し合いサービス利用に反映されている事もあり、おおむね理解を得られていると思う。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまり できていない	全く できていない		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	0	12	3	0	・その都度理解を得ることはとても大切です。継続していきましょう。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 医療面に関しては看護から注意点を説明してもらっている。利用者、家族の希望に応じて訪問看護や訪問介護に切り替えて対応しており、その都度理解を得ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	0	10	3	2	・普段のケアでも情報提供や説明がされている結果の数値だと思いました。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 家族に血糖測定方法の説明を何度か行い、現在では出来るようになった。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人(意志の決定・表示ができない場合は家族等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	2	10	3	0	・しっかりできている数値の表れだと思います。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 終末期に対する意思確認は書面で行っている。その時がきたら、その都度こまめに本人や家族に確認していく必要がある。困っている事はないか確認し、出来ない事を相談しながら訪問内容を決めている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまり できていない	全く できていない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	0	11	4	0	・その都度本人や家族への説明は必要不可欠です。継続して下さい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 利用者、家族に状況を伝え、利用形態の変更や説明を行っている。在宅生活に向けて、排泄動作等を確認し共有しているが、リスクに関して本人や家族は大きく捉えていないと感じるため、その都度、家族に状況説明が必要。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	0	5	5	5	・看多機としての実績を作り取り組んでください。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」かつ「記録として残している」場合は「よくできている」
		【具体的な状況・取組内容】 癌を患っている利用者はいるが、終末期に入っていない。今後の経過の説明や記録をこまめに行いたい。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	0	15	0	0	・しっかりできている数値の表れだと思えます。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		【具体的な状況・取組内容】 ・利用者によっては情報不足な時もあるが退院前の状態確認へ行き、在宅移行への情報共有や今後の生活に向けての検討を行っている。 ・退院後の医療連携情報シートで情報を共有し自宅復帰した実績あり。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	1	10	4	0	・継続して取り組んでください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] ・日頃から医療連携情報シートを活用し、主治医に相談や共有を行っている。 ・主治医からの指示書をもっている利用者は緊急時の対応方針を確認できている。					
③ 地域の医療機関との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	0	10	4	1	・急変時のマニュアルが確かなものであれば、安心して業務遂行できると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・急変時、協力病院に確認し、受診を行い、休日で主治医のところへ行けない場合は救急外来にて対応を行っている。 ・急変時のマニュアルやかかりつけ医や救急対応する時などが記載されている書類がそれぞれの利用者についてある。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	3	9	2	1	・継続して取り組んでください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		[具体的な状況・取組内容] 運営推進会議の実施をし事業所外の方々との情報共有や災害時の応援など意見交換がわれている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまり できていない	全く できていない		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	8	7	0	0	・しっかり情報発信が出来ている数値の表れかと思えます。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 出席していないスタッフでも議事録にて内容を確認出来ている。またスタッフ会議やその日のミーティングの時間内でも情報共有がされている。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	9	3	2	・スタッフの評価にばらつきある為、認識の相違を統一して取り組んでください。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] 積極的な啓発はあまりできていないが、植栽等の活動に参加したり、ボランティアのチラシ配布等は行っている。 ・広報誌も時々自治会長さんに配布してもらおう事あり。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、「具体的な状況・取組内容欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 指定なし					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	0	3	12	<ul style="list-style-type: none"> ・看多機としての実績を作り取り組んでください。 ・喀痰吸引の研修を受けて、受け入れの幅を広げると皆さんが勉強になると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 日中では行えるが夜間や不定期の吸引が必要な際は体制が整っていないため行えない。					
36	○「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	0	1	14	<ul style="list-style-type: none"> ・看多機としての実績を作り取り組んでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 人工呼吸器の種類によっては痰の吸引が必要となってくるが24時間の対応は難しい。					
37	○「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	1	10	4	<ul style="list-style-type: none"> ・看多機としての実績を作り取り組んでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・看取りとはどういうものかについてスタッフ間で共有はしており、マニュアルがあるが実績がない。 ・看取り支援をするために主治医と連携し対応をまとめたものを看護が発信している。 ・医療器具を使用しないのであれば受け入れ可能。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	0	3	9	3	・勉強会の開催など取り組むと良いと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
[具体的な状況・取組内容] 理解しているスタッフは少ないため、今一度確認が必要。							
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない)地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	11	1	3	0	・継続して取り組んでください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
[具体的な状況・取組内容] 特に限定はしておらず、半数以上が地域からの利用者である。							
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	0	7	1	7	・勉強会の開催など取り組むと良いと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことが無い場合は「全くできていない」
[具体的な状況・取組内容] ・運営推進会議にて自治会長や民生委員等に対して、感染者のことや高齢者の世帯が増えてきている当の話があがっています。 ・外部のインフォーマルサービスを理解できていないスタッフもいるので勉強会が必要。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	6	5	4	0	・家族に理解してもらうためには丁寧且つわかりやすい説明が必要かと思えます。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民のかかわりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 家族等に提案を行ってもできていない事が多い為、引き続き伝えていく。理解して頂けるよう丁寧に継続させていく事が必要。					

Ⅲ 結果評価								
① 計画目標の達成								
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない	[具体的な状況・取組内容] 定期的にモニタリングを行い確認、見直しを行っている。				・定期的なモニタリングは大切です。適宜見直しが全利用者にできるように頑張ってください。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感							
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない	[具体的な状況・取組内容] ・退院後や医療が必要な状況に訪問看護や通いを行い安心感が得られていると思われる。 ・通い、泊まり、訪問を活用し利用者だけでなく家族も安心して生活できていると思う。			・継続して取り組んでください。	✓ 在宅での看取りを除く、すべての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない ⑤. 看取りの希望者はいない	[具体的な状況・取組内容] 現在、看取り希望者がいないが、これからも家族との連絡を密にとり安心して頂けるように対応していきたい。			・継続して取り組んでください。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊り)での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」